

静岡市清水市民活動センター 平成 27 年度利用登録団体アンケート実施報告

平成 28 年 3 月 28 日

静岡市清水市民活動センター

1. 目的 センター利用者のニーズ把握と満足度を調査し、平成 28 年度の事業計画に反映させる。利用者の意見を、センター事業の成果の指標とする。
 2. 実施対象 清水市民活動センター利用登録団体 274 団体
 3. 実施期間 平成 28 年 1 月 8 日～1 月 31 日
 4. 実施方法 各団体宛にアンケート用紙を郵送し、回答方法は、持参、FAX、HP からの回答と団体が選べるようにした。
 5. 回収状況 274 団体のうち、返送 1 回答 127 団体 46%
-

1. 回収状況

目標回収率を昨年並み 48%とし、来館時の呼びかけ、電話をかけるなど回収に努めたが、わずかに目標に届かなかった。回答団体数は、昨年を若干上回った。

2. 回答方法について

昨年から HP からの回答も可能になり、その回答が増えてきている。

SNS を活用する団体が増えていることの表れではあるが、団体の実情に合わせて回答方法を、HP から、郵送、ファックス、来館時など、複数で用意した。

以下は、アンケートの結果から

3. よく使うセンターの機能について 各項目毎に、一番多いもの

【印刷・PC】

印刷機 43 団体 47%

【広報・情報信】

館内情報コーナーへの団体情報やイベントチラシの配架掲示 50 団体 42%

【場の提供】

オープンスペースの利用 56 団体 44%

【市民活動情報の入手】

情報誌「パートナー」からの市民活情報 78 団体 42%

【相談】

団体運営面の相談 25 団体 50%

【ネットワーク】

講座、周年事業（市民活動 FESTA）等イベントでの他団体・企業とのつながり 38 団体 45%

印刷機等の利用と活動の場としての利用は当然多いが、情報収集や他団体・他セクターと新たな関係性作りにセンターが活用されている様子がうかがえる。また、実務や運営、設立についての相談に対応する施設としての機能の利用、その他自由記載からは、気軽に利用できる施設という評価がある。反面、立地や駐車場等で使いづらい、団体メンバーが高齢化して活動休止という回答もあった。

4. 改善要望について

スタッフ対応については、相談業務を含め概ね「良い」評価を得ている。

また、イラストレーターや会計ソフトの操作の指導を希望する団体があったが、センターの事業としては、パソコンの講習が主な事業ではないので、実施は難しい。会計ソフトは活動計算書の指導に関連して実施してきている。

カラー印刷機の導入の希望もあったが、現在の利用数では予算的に無理である。

駐車場に関連する要望は毎年あるが、現実的には駐車場を増やすことは難しい。

5. センター利用による、団体の良い変化

特に無い・思い出せない	40 団体	38%
ある	66 団体	62%

センターを利用したことで良い変化があったと答えた団体は、66 団体、特にない、思い出せないと回答したのは 40 団体。昨年以上に、多くの団体が、センター利用をきっかけとした団体の良い変化を書いてくれた。

また、良い変化があったという団体からは、具体的な成果についての記載が多くあった。センターの相談機能、場の提供事業、講座や周年事業、情報の受発信などを活用することで、ネットワークの構築、協働相手との出会いという 2 次的な効果があることを多くの団体を実感していることがわかる。またセンターを場として利用することで会員同士のつながりが強まり活動の活性化がはかれた、相談や話をする相手が常時いることで実務がはかどる、安心感を得ることができたという回答もあった。広報協力や、マスコミとのマッチングの機会を提供してもらったことで団体活動をアピールできたというコメントもあった。

以下、具体的な意見を少し抜粋する。

場としての活用から

- ・センターへ出入りすることで市民活動を知ることができた。できるだけ多くの会員が出入りするよう心がけています。自分の団体を知ることにもつながるので
- ・利用者作品展の開催をさせていただき、チラシも配布していただいたおかげで地域の方々とのふれあいができた。自主製品販売で、活動の様子を紹介できた。

情報の受発信事業の活用から

- ・FM しみずさんに出演させていただいたこと。パネルやパンフレットなどを置いて頂き PR できたこと。

- ・FM しみず出演をきっかけにセミナー講師お願い。マスコミ関係者の方との交流により、より認識いただいた。

講座事業・周年イベントの参加から成果が

- ・FESTA2015 で当法人の PR ができた。
- ・パネルコンテストに参加し、団結力が増し、昨年度は賞金をいただき活動費に充てることができた。
- ・今年も新しいメンバーにパネルに貼るものを書いてもらい、お互いの好きな本への思いについて知ることができた。
- ・共催事業によりイベント告知の幅が広がり、活動周知につながったと思います。

相談事業を活用して

- ・NPO 法人の申請手続きについて、講義と助言をいただき参考となった。
- ・困った時にすぐに相談できることで、安心して活動を行っていくことができる。他団体と関わるきっかけが得られる。
- ・事業報告書、活動計算書等、書類の作成が楽になった。助成金情報が得られやすく、大変役に立った。
- ・助成金情報により助成を受けることができた。運営アドバイスにより、法人の改善ができた。
- ・紹介していただいた静岡市の協働パイロット事業で、企画書の作成等まで指導をうけ、採択され実現に繋がったこと。
- ・自主製品の味噌の販売促進・PR が出来た。

他団体とのつながり・ネットワークが広がる

- ・課題を相談する場とつながりが持てた。
- ・会員が増えた。他団体とのつながりができ、活動の幅が広がった。
- ・他団体との情報・連絡が必要だという意識付けができました。

5. 実施希望の講座

要望上位 5 項目 (件)

チラシづくりのコツ	28
助成金探し・申請のコツ	22
共に活動する仲間作り	21
他団体の活動事例紹介	19
支援者・ファンとの関係づくりのコツ	19
行政・企業・他団体との協働	17

チラシ作りの講座の開催要望は毎年多くの団体から出されているが、具体的にパソコン操作、デザイン、コピー作成のコツなど、団体によって内容が異なるので、企画の段階で精査する必要がある。助成金の講座は毎年要望が多いので、必ず年に 1 回開催している。

全体に、団体の活性化のための講座、人材育成や資金確保が団体の課題であることがわかる。

また、講座の要望ではないが、「NPO 業界のトレンドについての情報発信など、あるとありが

たいです。CANPAN や日本 NPO センターが出してる全国区の数字を、静岡で読み替えるとどうなるか、など。たとえトレンドについて行けなくても、知っていることは大事かなと思います」
という全国の NPO 法人を巡る動きや課題についても、視野を広くして考える必要性を要望した意見もあった。当センターとしても、重要なことと受け止めている。

6. まとめ

毎年のアンケートの自由記載欄は、多くの団体からセンターへの感謝のメッセージが寄せられている。市民活動センターが、場としてだけでなく、利用することで情報を得たり、他団体とのつながりをつくることができること、日々の運営相談から NPO に関する専門的な相談にも対応してくれる施設であることが周知されてきた。

センターの 10 年近い積み重ねの中で、団体同士がつながる事を重視してきたが、今年度からは、企業とつなぐことを本格的に始めた。常に利用団体の要望に耳を傾け、かつ、半歩先を見て行きたい。